

ESD 活動支援センター
活動レポート 2020-2021 (抜粋)

【2020 年度の活動を振り返って】

本報告書は、ESD 活動支援センターの 2020 年度の活動記録を取りまとめたものです。ご承知の通り今年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行があらゆる人間活動に大きな影響を及ぼしました。ESD 推進ネットワークを形成する支援センターや地域拠点も事業の中止や大幅な変更を余儀なくされましたが、工夫を凝らしながら各地で様々な活動を展開しました。ESD 推進ネットワークの今年度の取組や動向の主なポイントは以下の通りです。

●オンラインでの活動活発化

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、インターネットの会議システムを活用したオンラインでの会合やイベントが多数開催されました。移動時間や交通費がかからないため、遠方からでも気軽に参加できるというメリットがあります。会議システムの活用スキルや運営に関するノウハウも蓄積されており、新たな手法としてコロナ収束後も定着することが見込まれます。

●地域を越えた連携・協働の端緒に

全国フォーラムの 4 つの分科会の企画・運営を、それぞれ 2 つの地方センターが協力して担当しました。オンライン開催の利点を活かし、各センターの所管地域から選ばれた事例報告者やコメンテーターが登壇することで、共通のテーマでの地域を越えた学び合いが実現しました。テーマに関心を持つ人たちも全国各地から参加し、今後の連携・協働につながる機会となりました。

●SDGs に関連した活動の増加

2019 年 12 月に採択された国連の「ESD for 2030」を受け、センターに寄せられる相談や後援申請されるイベント等にも SDGs に関連するものが増えてきています。ESD は「SDGs 実現に向けた人づくり」として 17 の目標全ての達成に貢献するとされており、次期国内実施計画においても SDGs へのコミットメントが明記される見込みです。

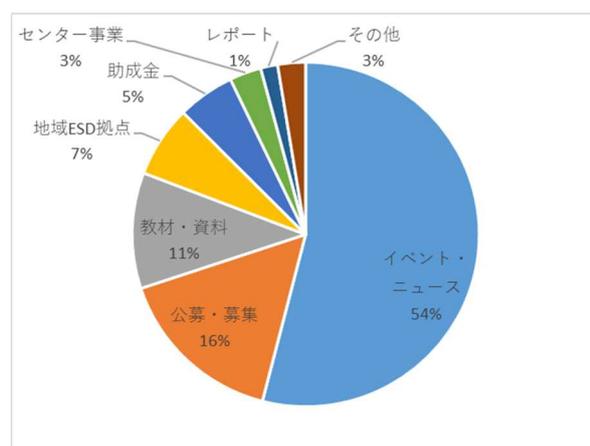
●ネットワークの重要性が更に高まる

現在策定が進められている「第 2 期 ESD 国内実施計画」には、各分野のステークホルダーを動員した協働型ネットワークの構築とパートナーシップを促進するための情報発信強

化が新たに盛り込まれます。ESD 活動支援センター（全国・地方）、地域 ESD 活動推進拠点を核として形成される ESD 推進ネットワークの果たす役割はますます重要になると考えられます。

【ESD 活動支援センター公式ウェブサイト】

ウェブサイトでは今年度も、地域 ESD 拠点や ESD 推進団体等から寄せられる多数の情報を発信し、広報・ESD の成果共有に努めました。センター（全国・地方）のウェブサイトに掲載した記事の 카테고리別内訳は以下の通りです。



○相談対応

ESD 活動を実践するに当たっての相談や支援依頼などを、受け付けています。緊急事態宣言が 2 度も発出されたことにより各組織・団体の活動が縮小・制限されたため、相談件数は昨年度より減少しましたが、ネットワークの強みを活かし研修・セミナーの企画支援や講師の紹介、広報協力など様々な相談に対応しました。

【ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2020】

SDGs 実現に向けた人づくり～ESD 推進ネットワークがつなぐ多様な主体の連携協力～

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（以下「全国フォーラム」）は、毎年 1 回、ESD 推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ESD に関する最新の国際動向、国内動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、相互のつながりを構築・強化することにより、ネットワークが成長するための機会として開催しています。

2020 年は、8 つの地方 ESD 活動支援センター（地方センター）が 4 つのテーマの下で分科会を企画・開催することにより、地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）と連携し、各地域で展開してきた活動の成果を地域を越えて共有する場となりました。

新型コロナウイルス感染防止のため、完全にオンラインでの開催となりましたが、全国各地から延べ 445 名の方がご参加くださいました。

1. 開催目的

- (1) ESD 推進ネットワークのこれまでの成果を確認する。
- (2) ESD に関する国内外の状況を共有する。
- (3) 各地方センターをハブとした地域内の連携、地域を越えた連携強化の機会とする。

2. 開催の概要

■主催：ESD 活動支援センター 文部科学省 環境省

■協力：地域 ESD 活動推進拠点(地域 ESD 拠点) 全国規模の ESD 推進組織・団体

■参加者：延べ 445 名

3. プログラム概要

(1) 主催者による開会挨拶

(2) 基調講演

①持続可能な社会の創り手の育成に向けて

石田 善顕さん(文部科学省国際統括官付 国際戦略企画官)

グローバル・アクション・プログラム(GAP)の成果と課題、2020 年 11 月に公表された ESD for 2030 ロードマップの概要、ユネスコスクール・ユネスコ未来共創プラットフォームなど学校における取組が紹介されました。また今後の課題として、コロナ禍での人材育成、国内外への取組の発信が挙げられました。

②SDGs 実現社会に期待される人材育成の取組

三木 清香さん(環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 室長)

環境省が目指すウィズコロナ・ポストコロナを見据えた脱炭素社会、循環経済、分散型社会への「3つの移行」による経済社会のリデザインと SDGs 実現に向けて進める地域循環共生圏の取組が紹介されました。また ESD 推進ネットワークの今後の活動として、実践を重視したテーマ別の学びあい活動などが提示されました。

③SDGs が創る世界と創り手を育む ESD～持続可能性が試される時代を迎えて

及川 幸彦さん(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員)

ESD for 2030 を進めるポイントとして、SDGs を念頭におくことで目標を明確化すること、地域課題への取組が地球規模の課題解決にも貢献するのだという意識づけを行うこと、地域の課題と SDGs の複数の項目との関連を理解することが挙げられました。その実践事例として、大牟田市の取組が紹介されました。



④ESD を通した授業づくりと地域連携

關口 寿也さん(多摩市立南鶴牧小学校 校長)

SDGs を達成できる人材育成を学校で進めるうえでカギとなる外部との連携について、双方の立場や考え方の違いから生じる課題が示されました。それらを踏まえ連携を成功に導くポイントとして、学びの主役である子どもたちの資質・能力・技能の向上を目的とすること、継続した学習に向けた協働、地域環境に根ざしたテーマ設定などが挙げられました。



⑤ESD for 2030 のさらなる推進に向けた市民社会からの期待

鈴木 克徳さん(特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 理事)

ESD for 2030 が掲げる SDGs と ESD との繋がり、明確化、マルチステークホルダーによるパートナーシップなどの実現・実践に向けた具体的な提案がなされました。

◆分科会

①-1 次世代を対象とした SDGs 人材育成活動の探究と実践

NPO 等がコーディネートを行い、ユースの主体性を尊重した社会参加の取組みを紹介。地域の活動に関わることで課題に当事者として向き合う事や、様々な世代との交流を通じて、SDGs 達成に寄与する次世代育成について考えました。



●担当地方センター：北海道センター、関東センター

●話題提供者：松井晋作さん(桐蔭横浜大学 教育研究開発機構専任講師)、草野竹史さん(NPO 法人 ezorock 代表理事)

●コメンテーター：松倉紗野香さん(埼玉県上尾市立大石中学校教諭上智大学総合人間科学研究科教育学専攻在学中)

①-2 SDGs の取組を社会実装するための ESD ～どんな人材が望まれるのか、育成するのか～

社会人を対象とした SDGs チェックリストを用いたワークショップ、企業における SDGs の取組実践と社員教育の事例紹介とディスカッションを通じ、社会のプレーヤーを構成する人材育成の観点から ESD のあり方を考えました。

●担当地方センター：中部センター、四国センター

●話題提供者：堺勇人さん（一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）事務局長）、平野啓三さん（株式会社平野 取締役会長）

●ファシリテーター：古澤礼太さん（中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授）

②-1 学校と地域が連携して SDGs の人材育成を進める学習指導(プログラム)案の作成と実践

学校と地域が連携した SDGs 達成に寄与する ESD（持続可能な社会の創り手を育成する教育）の実践事例紹介及びプログラム作成の取り組み紹介を行い、地域での ESD 授業づくりへの具体的な参画のあり方について考えました。

●担当地方センター：東北センター、近畿センター

●話題提供者：新宮済さん（奈良市立平城小学校 教諭）、阿部友幸さん（山形大学附属特別支援学校 教諭）、亀崎英二さん（山形大学附属特別支援学校 教諭）

●コメンテーター：見上一幸（東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員長）

②-2 地域のレジリエンスと ESD

毎年のように各地で発災する自然災害に対して、自然学校がネットワークして取り組む支援活動の事例を紹介し、地域での学びあい・ESDにつながる地域学習・人材育成の重要性について考えました。

●担当地方センター：中国センター、九州センター

●話題提供者：小川聡さん（田舎の体験施設さんがうら施設長）、西村仁志さん（RQ 広島 代表／広島修道大学人間環境学部 教授）



◆全体ふりかえり

進行：飯田貴也さん（NPO 法人新宿環境活動ネット 理事・事務局長）

午前中の基調講演をふりかえるとともに、午後に開催された 4 つの分科会及びサテライト企画のユースフォーラム(後述)の概要についてそれぞれの代表者から報告をいただきました。その後、With コロナの状況下における ESD 推進ネットワークの今後の方向性について意見交換を行いました。

◆閉会挨拶

1. バーチャル・ポスターセッション

地域 ESD 推進拠点、全国規模の ESD 推進団体など各団体の取組を紹介する「バーチャル・ポスターセッション」のページを設置、フォーラム終了後の 1 月 29 日までオープンし

多くの方々にご覧いただきました。

※出展団体は省略

2. サテライト企画「ESD 推進ネットワークユースフォーラム 2020」

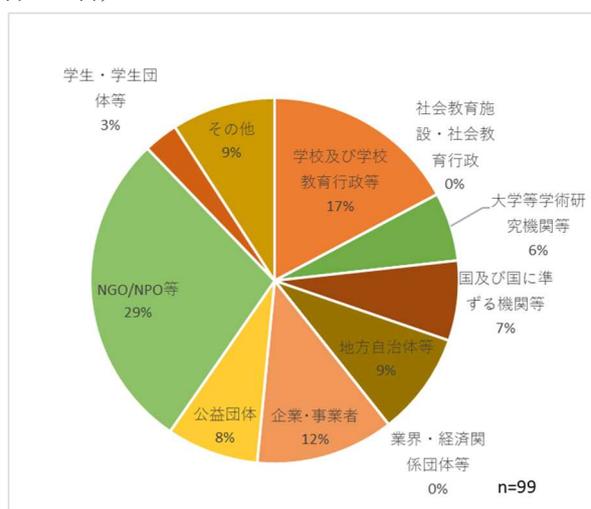
多様なテーマで活動しているユースネットワーク団体が「ビジョン」「ミッション」「活動状況」「抱えている課題」について情報交換を行い、今後のユース団体同士の効果的な役割分担や協働などの可能性を見出すことを目的として開催され、51名がオンラインで参加しました。

10のユース団体からの事例報告やその後のディスカッションを通じ、専門家との連携や他団体との交流・協力など活動の輪を広げるためのプラットフォームやコミュニティ形成の重要性が確認されました。

○全国フォーラム 2020 アンケートより（回答者 99名）

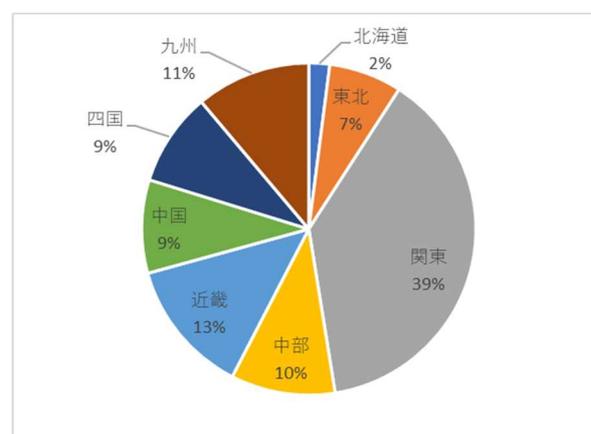
●参加者の立場

NGO/NPO等（29%）が最も多く、学校関係者等（17%）、企業・事業者（12%）と続いています。企業・事業者の割合が昨年度（7%）より大幅に増加しました。



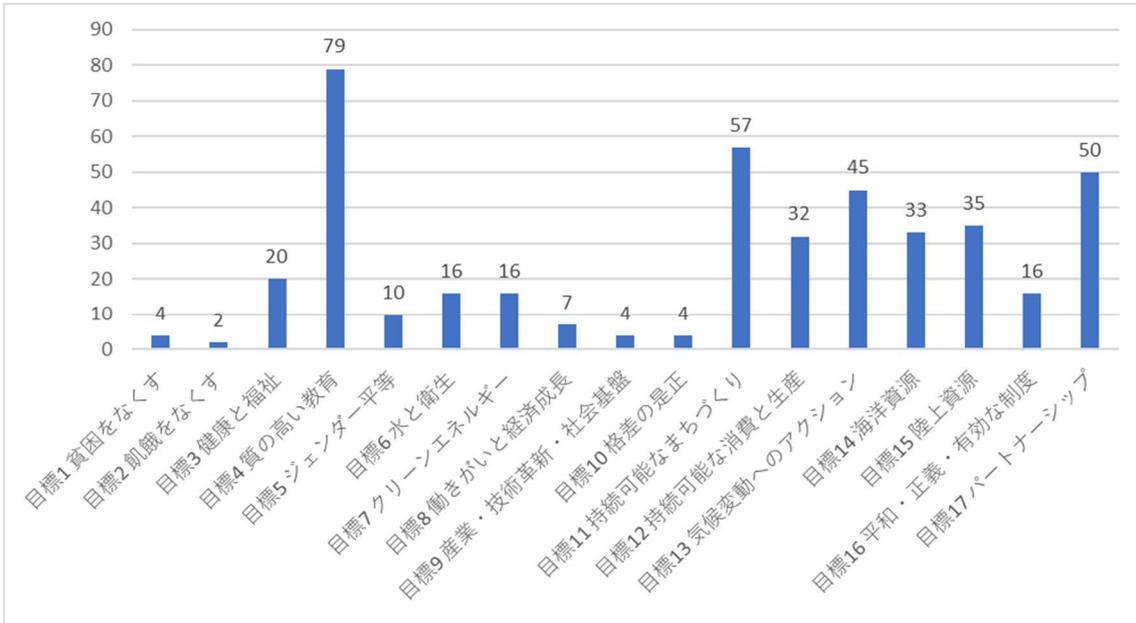
●参加者の地域別割合

関東からの参加が多い傾向は続いています。他の地域からの割合がかなり増加しました。オンライン開催のメリットが表れています。



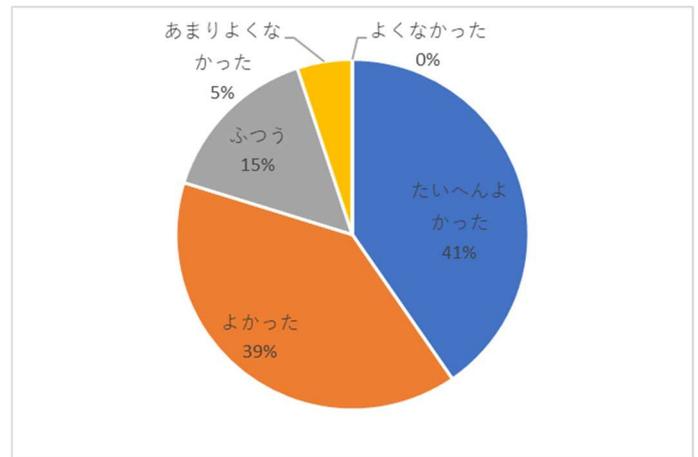
●SDGsの取組状況（複数回答）

ESDのフォーラムだけあってSDGs4（教育）が最も多くなっていますが、SDGs11（まちづくり）に取り組む参加者が多いのが今年度の特徴です。



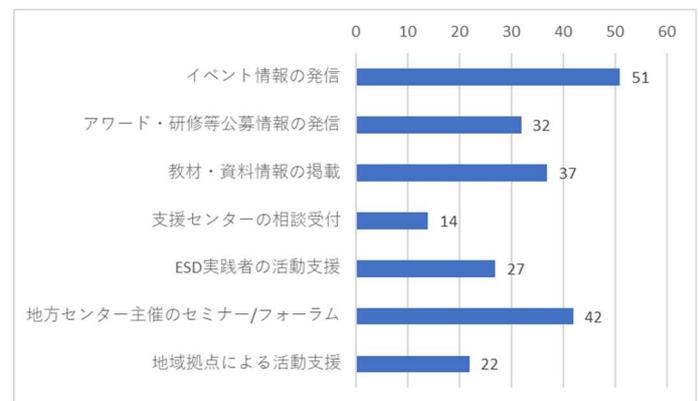
●フォーラム全体の評価

初めてのオンライン開催となりましたが、多くの参加者から高い評価をいただきました。



●ネットワークが役立っている点

情報発信や地方センターが開催するイベントという意見が多く寄せられました。情報発信や知見の提供という部分で、ESD推進ネットワークが貢献できていることがわかります。



【各地に広がる ESD 推進ネットワークの活動】

各地域でも、地方センター・地域 ESD 拠点が中心となり情報交換や交流を行うイベントが開催されました。新型コロナウイルスの影響下、オンラインを活用するなどして多様な主体が集い、活動事例の紹介やディスカッションを行いました。テーマには SDGs を切り口にしたものが多く、「SDGs 実現のための人づくり」という目標に向けた ESD 推進ネットワークの活動が活発化しています。

●関東「ユースと進める SDGs」

中高生が SDGs について自ら学び、調べ、アクションを行った「SDGs 文化祭」の結果を発表、各分野の専門家が中高生と一緒にその意義や取り組み方法を掘り下げるフォーラムを開催しました。未来の担い手・当事者であるユース世代が目指す社会変容、大人世代がユースと共に持続可能な社会をつくる方法について、参加者全員が考える機会となりました。



●中国「新聞から読みとく SDGs～知る、深める、伝える～」

新聞を活用したアクティビティを体験し、実践につながる授業の手法を学ぶことにより、新聞から SDGs への理解を深めることを目的としたフォーラムを開催、中国地方の学校関係者など ESD や NIE (Newspaper in Education;教育に新聞を) に携わる方々が多数参加しました。



●九州「『ESD for 2030』持続可能な未来へ」

「ユネスコスクール・SDGs/ESD 実践交流会」と連携し、新型コロナウイルス感染拡大により教育活動にも大きな影響が出る中、次世代の担い手育成にどう取り組むべきかについて、国際分野・自然体験分野・活動支援分野でそれぞれ活動する地域 ESD 拠点到事例を紹介していただきました。



以上